

浅草寺・宝蔵門「大わらじ」

浅草寺宝蔵門の大わらじは、昭和 16 年に村山市出身の松岡俊三代議士が護国の象徴として納めたのが始まりです。

昭和 39 年に同じく村山市出身の彫刻家村岡久作氏が宝蔵門復元時に仁王像（吽形像）を彫ったのを記念して2度目の奉納をしてから、ほぼ 10 年に一度ずつ奉納されています。

平成 30 年 10 月 21 日には第 8 代目となる大わらじが奉納されました。

奉納された大わらじは、片方長さ 4.5m、幅 1.5m、重さ 500kg の大きさで、浅草寺宝蔵門の仁王様の力を表し、「このような大わらじを履くものがこの寺を守っているのか」と魔が驚いて去っていくと言われていています。

大わらじは右と左の鼻緒の重なりが違います。着物と一緒に左が前にくるのが「男わらじ」、右が前にくるのが「女わらじ」です。本堂から見て左側が男わらじ、右側が女わらじとなります。これは、制作時や行列の際、左右が区別できるよう配慮したものとされています。

◆浅草寺

東京都台東区浅草 2-3-1

東京メトロ 銀座線「浅草駅」出口 1 より徒歩 7 分



平成 30 年 10 月 21 日
大わらじの奉納行列



左側：男わらじ
右側：女わらじ

作成：2019.9.3